

宮城私教連 ニュース

仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台
宮城県私立学校教職員組合連合
TEL 022-271-3007
FAX 022-271-3008
25-12 号 2025 年 12 月 9 日

署名集約総数 11,006 筆 私たちの思いを県議会に 提出しました

26年度からは就学支援金制度が大幅拡充

12 月 9 日、宮城県議会に皆さんからお預かりした署名とともに、私学助成の拡充を求める請願書を提出しました。

ご存じの通り、2026 年度からは国の就学支援金制度が拡充され、授業料支援の上限額が引き上げられると同時に、これまでの所得要件が撤廃されることになります。これは私たちの長年にわたる私学運動がもたらした大きな成果であり、「真の私学の無償化」に向けて大きな前進です。



4年連続の1万筆超え

宮城県の署名集約数は 2021 年に 1 万筆を下回りましたが、「すすめる会」と私教連が連携し、粘り強く運動を推進することによって 2022 年からは 4 年連続で 1 万筆以上を維持しています。

就学支援金制度は拡充されますが、入学金や施設費等の学費負担は次年度以降も残存します。子どもたちが家庭の経済事情に左右されず、自由に高校選択ができる環境を私たちの運動で実現させるためにも、今後も教職員と父母が連携して私学運動を推進していきましょう。

宮城すすめる会は 12 月 9 日(火)、県議会に署名 11,006 筆を提出しました。県議会議長をはじめ 14 人の県議が出席し、父母・教職員の声を受けとめました。宮城では 5 日(金)の院内集会時点では 1 万筆以下だった署名をこの日までに 1 万 1000 筆まで増やしました。



請願書を手交する宮城県私学助成をすすめる会の永澤会長（中央）

「長年にわたる運動の成果として、ついに授業料無償化が実現した。大変感慨深い。一方で、入学金など様々な経済的負担は残存する。今後も子どもたちが家庭の経済環境とは関係なく学校選択ができるようにしていくため働きかけてきたい」

挨拶に立った佐々木幸士 県議会議長

「皆さんの気持ちを十分に汲んで、その思いを受け止めていきたい。今後も宮城県の教育がさらに発展していけるよう、議会としても一層の努力をして参ります」



参加者を代表して発言した川畑さん（尚絅父母）

「授業料無償化が実現して、嬉しい気持ちもあるが、もっと早く実現していれば進路選択が変わっていた子ども達もいたのではないかと思うと複雑な気持ち。今後は先生方の働く環境や身分なども整備していけるような私学助成を目指していただきたい」



集会には佐々木議長をはじめ、5会派から 14 名の県議会議員が出席しました